

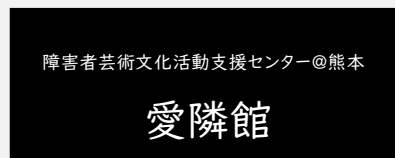
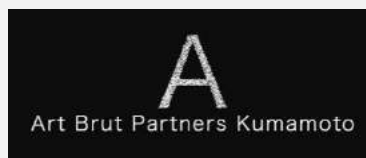
令和2年度

熊本県障がい者芸術文化活動普及支援事業

報告書



藤岡祐機/無題



社会福祉法人 愛隣園

アール・ブリュット パートナーズ熊本

はじめに	1
1. 地域の現状と課題、めざす成果	3
2. 事業報告（パワーポイント版）	5
3. 事業実績報告書（熊本県所定様式）	11
4. 生の芸術 Art Brut 展覧会 vol. 6 出展作家紹介	19
インディペンデントキュレーター 真武真喜子 熊本日日新聞社 岩下 勉	
5. 相談支援の概要	32
6. 展覧会来観者のアンケート（抜粋）	35
7. アール・ブリュット パートナース熊本・社会福祉法人愛隣園 事業事務局	39

かねてより障害のある人たちの芸術活動支援に、ご理解とご協力を賜り心より感謝申し上げます。この度、令和2年度厚生労働省障害者芸術文化活動普及支援事業（美術分野）報告書を作成しましたので、ご一読頂ければ幸いです。

本年度、新型コロナウイルスが猛威を振るう中、感染症対策を強化した県立美術館本館での生の芸術 Art Brut 展覧会 vol.6 に、2,044 名の来場者を無事お迎えできたことを心より嬉しく思います。会期中には作家の皆様をはじめ、関係者の方々には多大なご協力を賜りましたこと、この場を借りて感謝申し上げます。ありがとうございました。

この他、展示の機会を安全確保のため減らしながらも、熊本県庁や地域の公民館で移動美術館を開催、さらには作家の個展等を支援することができました。

そして、感染症対策を検討する中で、新しい試みも始めました。インターネットの活用です。展覧会用ホームページの作成や作家の制作風景の動画配信、キュレーターによるオンラインギャラリーツアー等を行いました。また、展覧会にご来場のアパレルブランド経営者や三益式実行委員長より、当団体と連携した取り組みの申し出を受け、選出作家の作品を使った三益式コラボ T シャツ等のグッズ作成が実現しました。

作品に心を打たれ、作家のパートナーとして支援を続けたいと始めた活動です。新しい作家（13 名）との出会いや支援の輪が広がるにつれ、人権啓発など活動の価値が深まりつつあります。

これからも、皆様にご指導を賜りながら、障害者芸術活動の振興に努めたいと存じます。どうぞよろしくお願い申し上げます。

社会福祉法人 愛隣園

アール・ブリュット パートナース熊本



Design  
Yamashina Satomi

## 地域の現状と課題

---

今年は、コロナ危機により、人と人が交ざり合えない1年を過ごした自発的に感染予防ができにくい障害のある方々とその生活を支える福祉関係者の緊張感は現在も続いている。社会的にも様々な展覧会等が中止となり文化芸術活動のダメージははかりしれない。

このような時期でも、障害のある作家たちは生活の一部として、呼吸をするように創作(表現活動)を続けておられる。それはコロナ禍での精神的な不安状態を和らげる効果もあった。

これまで、長年のくまもとハートウィーク「障がい者芸術展」や、アール・ブリュット展で培われてきた、熊本の障害者芸術の振興が下火になってはならない。県外から「作家の熊本」と評価されるようになったことの重みと、発表の機会が作家の生きる環境を変えていくことを励みにしたい。本年度も様々な連携ツールを用いて、安全に配慮しながら新しい様式で支援活動を続ける課題を1つずつ乗り越えて行きたい。



## 事業実施により得られる効果、めざす成果

今年は電子ツールを用い、私達のネットワークを生かしたコーディネートにより、①障害のある作家・家族、事業所等の身近な相談支援機能の充実、②障害者支援施設、支援学校等支援者の人材の育成と作家の発掘などの事業を継続して実施することにより、次のような効果を目指していく。

①障害のある人々と家族・支援者のエンパワメント。②障害のある人の個性や魅力が作品として目に見えることで、障害の正しい理解と差別解消へとつながること。③“うちの地域(学校・施設)のアーティスト”と認知されることにより、作家の誇りが生まれ、生きやすさにつながる。④特別支援学校や福祉施設における芸術活動を生かした支援の質の向上、ならびに、個別支援の浸透と支援の連続性が生まれること。⑤作品を通じた社会経済活動への参加。

県内全域の障害者関係団体、教育機関、地域住民等と事業を進め、障害のある人々の自立支援・社会貢献を推進し、障害のある人々が主体となる新しい芸術文化の振興と、地域共生社会の実現に向かうことを目標とする。





# 1. 展覧会の実施

## (1)「生の芸術 Art Brut 展覧会vol.6」の開催

10月6日～18日 熊本県立美術館 本館

総来場者数 2,044名 アンケート回答数 189件

オープニングセレモニー

オンラインギャラリーツアー:キュレーター 真武真喜子氏



オープニングセレモニー



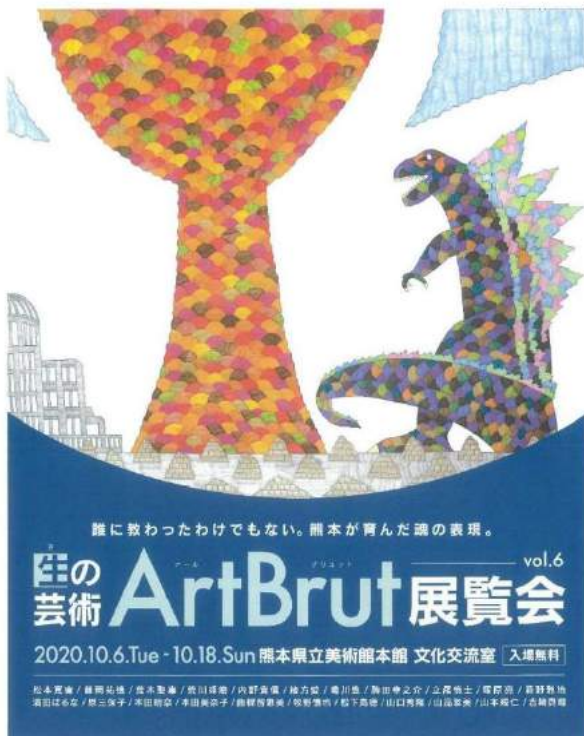
コロナ対策と作家ライブ



10.7 熊本日日新聞

# 1. 展覧会の実施

## 「生の芸術Art Brut展覧会vol.6」の開催



コラボ事業に向けた  
打ち合わせ



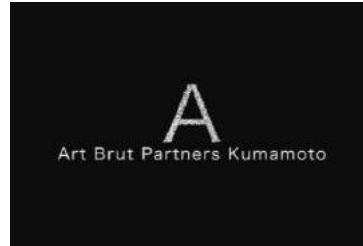
YouTube  
オンラインギャラリーツアー

県内22名の作家。約110点を展示  
beyond2020 認証事業

## 2. 新たな取組

- ホームページの作成

[aileans.com/saca](http://aileans.com/saca)



- 作家制作風景動画の作成



松本寛庸氏



藤岡祐機氏



荒木聖憲氏



駒田幸之介氏



撮影の様子

3

## 3. アール・ブリュット移動美術館

- ① 11月1日～7日 三岳公民館（三岳校区）
- ② R3年1月5日～19日 熊本県庁地下通路



11.1～7 三岳公民館



1.5～19 県庁地下通路



## 4. コラボ事業

### ①作品のグッズ化・検討

#### 1. 三益式実行委員会(県内30歳の立志式)

瀬尾誠一 氏

第一弾:内野貴信氏 × オーガニックコットンTシャツ

第二弾:塚原 亮氏 × エコマイボトル(計画)

第三弾:菊川 豊氏 × エコマイバック(計画)



5

## 4. コラボ事業

### ②作品の二次利用

#### 1. 第6期熊本県障がい者計画 表紙

曲梶智恵美 氏 「木」



#### 2. 熊本市障がい者福祉センター希望荘

40周年記念誌

曲梶智恵美 氏 「夜のサイクリング」



アドバイザー 岩下勉 氏 撮影協力

## 5. 講演の実施

### ○オンラインギャラリートーク

インディペンデントキュレーター 真武真喜子 氏

### ○熊本県人権啓発WEB講座(熊本県環境生活県民生活局人権同和政策課)

「アール・ブリュット(生の芸術) 芸術でつながる地域共生社会」

事務局長 三浦貴子



## 6. 研修・人材育成

1. 厚生労働省障害者芸術文化活動普及支援事業全国会議  
※オンライン(7/29、7/31、8/5、12/2)
2. 厚生労働省障害者芸術文化活動普及支援事業  
九州ブロック会議(福岡:11/18、熊本2/20)
3. 展覧会準備期間を人材育成の場 (熊本:9/28-10/5)
4. 生の芸術Art Brut展覧会vol.6 運営・撤収(熊本:10/6-18)
5. 移動美術館 準備・撤収 (山鹿:11/1-7 熊本:1/5-19)
6. 日本博九州展 作品搬入、展覧会協力、出展作家見学サポート  
(長崎:9/17-26)
7. 個展開催協力 (山鹿:2/16-28)

## 7. 調査・発掘

1. 作家・作品訪問調査 46件
2. 情報提供による作家発掘 13件（累積登録84名）



9

## 8. 相談窓口の設置

1. 連絡調整件数  
情報提供、連絡、日程調整 メール 349件  
会員メール(情報発信 33件) その他
2. 相談件数 62件（作家・家族・支援者 等）  
芸術活動等に関すること  
展覧会・移動美術館に関すること

10

## 9. ネットワークづくり

### ア 会員の拡充

一般会員 124 名 法人会員 28 団体

県重症心身障害児・者を守る会、県障害児者親の会連合会

県身体障害者福祉団体連合会、県手をつなぐ育成会、熊本市手をつなぐ育成会

熊本市発達障がい者支援センターみなわ

株式会社調べ考房、有限会社松永オート、合同会社COCORO

(福)愛火の会、(福)愛隣園、(福)大江学園、(福)陰陽会、(福)菊愛会、(福)慶信会

(福)三気の会、(福)寿量会、(福)西部福祉会、(福)北斗会、(福)八代愛育会

(福)友朋会、(福)リデルライトホーム、NPO法人はまちどり

ヒューマンネットワーク熊本、たんぽぽの会

(医)かぜ、障害者支援施設しょうぶの里、障害者支援施設第二つつじヶ丘学園

### イ 事業所ネットワークオンライン会議の開催

銀河カレッジ、サニーサイド、第二城南学園、しょうぶの里、星光園、野々島学園

八代学園、ゆたか学園、るびなす

11

## 10. 評価・発信

### ・ ウェブサイト

本事業に関する記事の投稿数 41件

アクセス数 4,211件

### ・ TV放送 2回、新聞掲載 4回



10.9 熊日新聞



10.7 KKT「てれびタ」



## 事業実績の概要

---

- ① 相談支援:芸術活動支援市民ネットワークと共に7年間の実践経験を基に、「障害者芸術文化活動支援センター@熊本 愛隣館」では、通年で62件の相談に個別対応した。
- ② 人材育成:展覧会1週間前から展示会場を計画的に作り上げていき、その段階ごとに参加する人材のスキル向上を図った。また、事務局スタッフがこれまで展示するうえで気を付けてきたことや学んだこと等を冊子にまとめ(「展示の裏側」)、関係団体に配布して県内の人材育成にも努めた。
- ③ 連携:これまでの事業継続を通し、活動の機運が高まってきている。その結果、次年度は熊本県立美術館本館の大展示室での展示が実現できる見込みとなった。また、県内大手企業や30歳の立志式・三益式実行委員会等からの申し出により、コラボ事業が実現した。
- ④ 展示実績・発信:4年連続となる熊本県立美術館本館での展覧会を、多団体との連携のもと開催することができた。新型コロナウイルスの影響により、作家ライブも対策を講じつつ実施した。また、出展作家の制作風景動画を作成し、展覧会場の入場制限の際、待機場所となるエントランスホールで上映した。結果的に、コロナ禍にも関わらず昨年度の来場者数と変わらない人数(2,044人)の方が来場し、県民の関心の高さが伺える展覧会となった。

## 事業により得られた成果 及び 今後の成果の活用方法

- ① 「多分野かつ広域ネットワークの活用」

これまで事業を継続する中で築いてきた従来のネットワークに加えて、県人権同和政策課など、本会と連携して事業を進める動きが昨年度から増え、本会の認知度と活用方法が広がっている実感を持てた。特に本年度は作品グッズ化を連携事業として求められる声が多く、作家の収益につながり、社会参加の一助となった。この動きを絶やすことなく次年度につなげていきたい。
- ② 「専門性と個別性を重視したことわからない、なんでも相談支援の継続」

これまで身近に、ことわからない、なんでも相談支援を続け、作家・家族・支援者との信頼関係の深まりが感じられると共に、芸術活動全般の幅広い相談事を受けるようになった。また、九州エリア事業への協力など県を超えての対応等、活動の範囲も広がりを見せており、作品の価値や作家の権利を守ることの必要性・重要性を説明することを心掛け、作家の利益となるような支援を続けていきたい。
- ③ 「作家の自立支援と作品の保護」

芸術活動を通じた作家の自立を実現できるように取り組んだ。作家と専門家をつなぐ等の中間支援としての役割を担う支援センターとして、作家の自立と作品の保護につなげていく方法を具体的に検討しており、今後形にしていきたい。
- ④ 「新しい生活様式への順応」

コロナ禍の影響により例年通りの支援が出来ない中、できることを模索して、インターネットを使った取り組みを行った。結果的に、これまで会場に来ることが難しいと思われていた人たちも参加できるようになり、コロナ対策を施した展覧会場では、外出を自粛していた人たちの出かけるきっかけになったという感想が聞かれた。来年度も感染症対策をスタンダードとし、またオンラインも活用して取り組みを続けたい。
- ⑤ 「支援モデル“熊本方式”の推進」

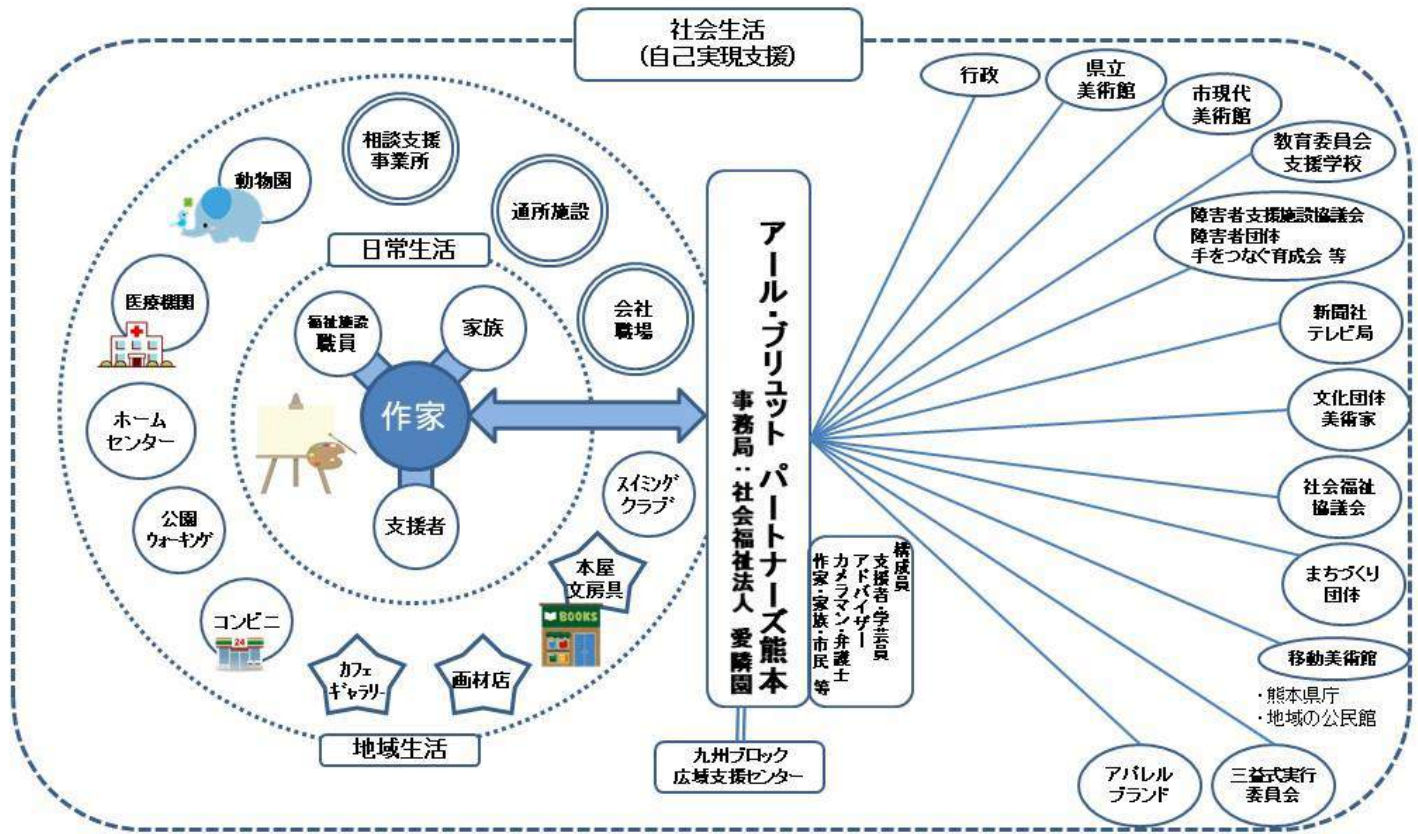
作家が日常生活の範囲を超えて、専門職等との関わりを持ちつつ地域社会で自己実現ができるように、双方をつなぐ役割を支援センターが担う支援モデル“熊本方式”を推進していく。

ここ数年は未成年の作家も選出され、学校関係者による支援の輪の広がりが続いている。また、作家の収入につながるような様々な動きも見られるようになり、障害のある作家の経済面での支援をしようと考えている個人や団体とつながる機会が増えてきた。支援センターだけの活動に留まらず、ネットワークによる支援を行うことで、より幅広く、未広がり作家らを支援できることが分かってきた。

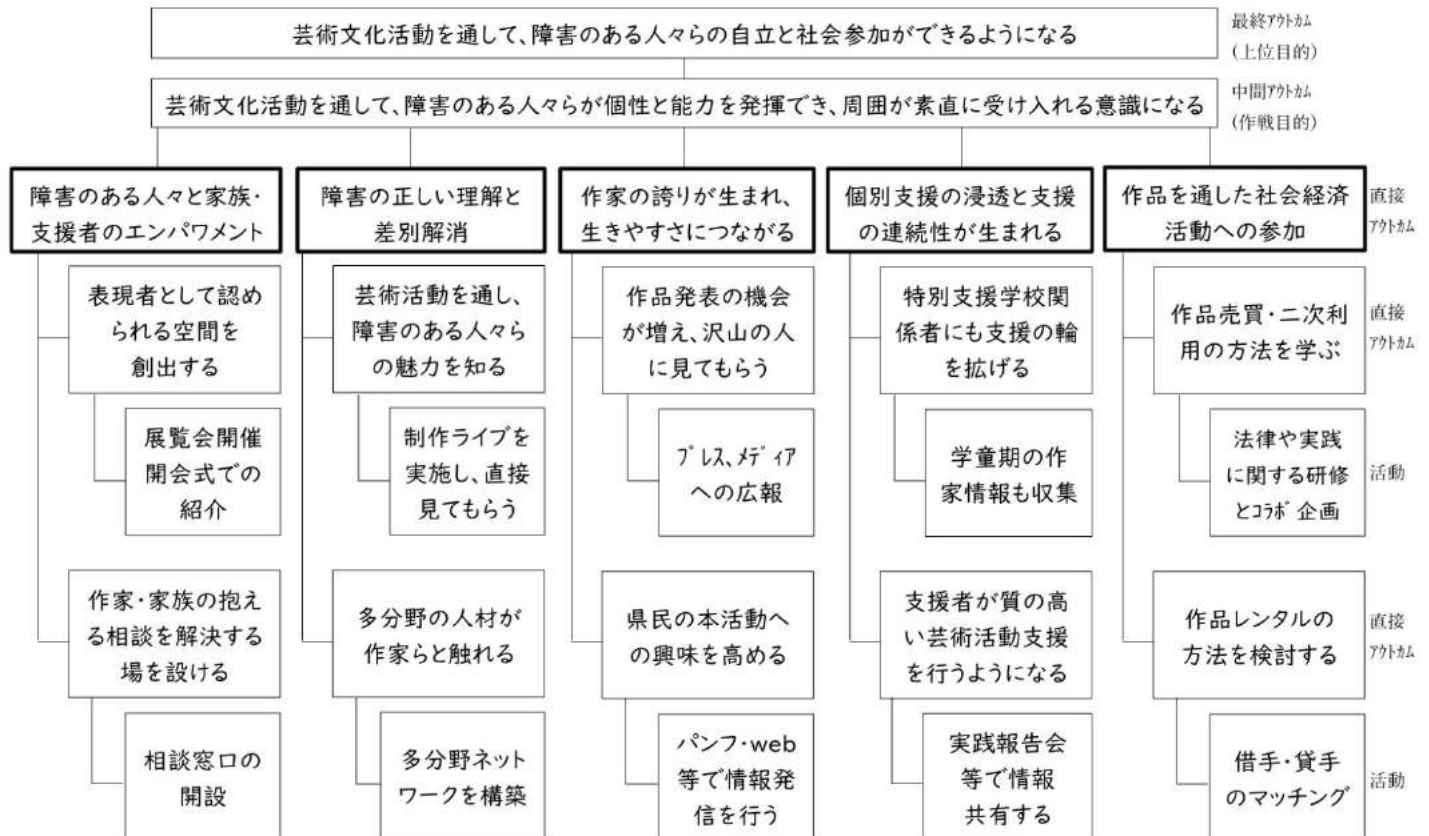
今後も、多様な資源がネットワークを持って地域の作家を育むプロセス「芸術でつながる地域共生社会」づくりを推進する。より多くの県民が参加し、作品への感動が共生社会を静かに築いていく事業を、私たちの地域熊本で続けていきたい。

# 地域資源の連携ネットワーク型障害者芸術活動支援モデル「熊本方式」2020

☆「熊本方式」とは、作家を中心に、福祉、教育、芸術、企業、行政等が市民団体として連携し、地域に根ざして、障害者芸術活動を振興していくモデルです。作家の家族等も輪に加わり、互いに刺激しあい高めあっていく(交互作用)を目指しています。作家の自立・社会参加と共に、芸術でつながる地域共生社会が目標です。



障害者芸術文化活動支援センター@熊本 愛隣館 ロジックモデル





## 事業実績の詳細

---

### 県内における事業所等に対する相談支援

「障害者芸術文化活動支援センター@熊本 愛隣館」の認知度の高まりとともに増えてきた、個別具体的な相談を専門家と連携し対応した。

相談内容も多様化し、芸術活動を通して収入を得たいという作家のニーズと、障害のある人たちの支援をしたい、という支援者のニーズを結び付けたコラボグッズは、作家の自立支援・社会参加につながった。連絡調整や書類の作成等のノウハウを蓄積した。

また、芸術活動に伴う額装や保管場所への助言、個展開催時の作品運搬や展示協力等、多岐に渡る相談に応え、作家がそれぞれに持つ悩み事も解決できるよう取り組んだ。

### 芸術文化活動を支援する人材の育成

- ① 10月開催の「生の芸術 Art Brut 展覧会 vol.6」では、開催1週間前からスケジュールを組み、準備に入るスタッフのスキルアップの場として、延べ17名が参加した。②展覧会期間中は、行政、関係団体、福祉事業所等延べ46名のスタッフで受付・運営を行い、OJTで運営の技術と新様式の展覧会について学んだ。③キュレーター真武真喜子氏のギャラリーツアーを事前に撮影し、展覧会開催に合わせてYouTubeで配信した。これまで会場に来ることが難しかった方々にも、インターネットを利用して参加してもらうことができ、次年度以降もインターネットを使った取り組みを続けていく必要があると感じた。④インターネットの取り組みの一環として、制



作風景動画の撮影・公開とホームページの刷新も図った。本会の地元、山鹿市の若手クリエイターとつながりもでき、新たなネットワークへの期待が高まった。⑤県人権同和政策課のWEB研修会で芸術活動支援について講演し、障害のある人々の理解、人権への配慮、そして、活動の周知と芸術活動支援への興味を深めるものとなった。⑥長崎県美術館で開催された「アール・ブリュットー日本人と自然 in 九州ー」展では、選出された熊本県内の作家4名と長崎事務局の調整・作品運搬等を通して中間支援の役割を全うし、展覧会期間中にはスタッフ2名の受付協力と、作家3名に対する同行支援を行い、人材育成と作家の意欲向上につながった。

### 関係者のネットワークづくり

事業継続の中から、ネットワークの拡がり生まれ、新たな取組につながってきている。本年度では、大手企業や県内30歳の有志で作る三益式実行委員会との連携により、登録作家の作品を使ったグッズ制作等、芸術活動支援の幅と可能性が広がった。また、県・市障害福祉行政による作品の活用、県人権同和政策課との連携・広報誌掲載など、活動の支持者が増え、ネットワークが強化されている。

本年度の展覧会は、コロナ禍の影響で来場者は少なくなると見込んで、インターネットやSNSで紹介する等の取り組みを行った。その結果、コロナの感染リスクの影響で福祉事業所関係者は例年より少ないにも関わらず、SNSで情報を集める若い層の来観者が多く、昨年度と同程度の来館者数で、反響の大きさが伺えた。

## 発表の機会の創出

県立美術館本館で、4年連続開催の「生の芸術 Art Brut 展覧会 vol.6」へは、沢山の方にご来場頂いた(13日間、2,044名)。また、展覧会用のホームページを企画し、制作風景の動画や出展作家を紹介するページを作成し、インターネット環境下であれば、いつでも誰でも見る事ができるようにし、アクセシブルな展覧会となった。ネットを介し、新しい観客層が生まれた。

コロナ禍の中、「アール・ブリュット移動美術館」は感染リスクを考え、控えざるを得なかった。地域の公民館で開催された文化祭への出展依頼には、地域在住の作家の作品を展示して喜ばれた。そして、熊本県庁地下通路での展示も開催でき、活動を知ってもらう機会を確保できた。

県の「障がい者芸術展」では、本展覧会の出展作家の特別展示が決まり、作品を借り受ける際の協力等を行った。さらに、3名の作家の個展展示協力の要請に応えるなど、活動の制限がある中、可能な範囲で芸術活動支援を行った。また、県障害者計画の表紙画、市希望荘記念誌の表紙画に登録作家作品の要請があり、撮影・データ提供等を行った。

## 情報収集・発信

会員ネットワークやホームページ上で情報の収集、発信を行っている。

また、展覧会場に設置しているアンケートに作家情報提供欄を設け、新たな作家情報を受け付けていることを周知して、本年度は新たに13名の作家を発掘した。ホームページや会員ネットワークで展覧会等の情報を収集するとともに、情報発信の場としても

活用し、会員メールで33件、ホームページで15件の情報発信を行った。

展覧会開催にあたってプレスリリースを行い、新聞で作家にフォーカスした特集記事など4回、テレビ(KKT、TKU)では2回取り上げられ、多くの人の関心の高まりを来場者の感想等から伺えた。取材協力も、作家、記者との調整、作家送迎、取材対応など、8日間程度3名のスタッフが担った。

### 成果のとりまとめ

事業報告をまとめた冊子を作成し、関係機関に配布する。また、ホームページ上にも報告書データをアップロードし、幅広い人たちが閲覧し、芸術活動支援が普及するように努める。さらに本年度は、芸術活動支援を7年続けてきた事務局スタッフが、展示の際に大切にしていること、これまで学んだこと等、より具体的な知識を深められるよう冊子「展示の裏側」にまとめ、これから芸術活動支援を始めようとする人たちの手がかりや手順資料となるものを作成した。

展覧会場等で来場者に記入してもらったアンケート結果は、一覧にして作家・支援者に届けて、新たな創作意欲につながった。さらなる支援の充実への動機づけとなった。

## 本事業に関わる第三者評価について

---

### 県内意見交換より

1. 障害者芸術活動支援団体より「熊本県内で障害者芸術活動支援の広がりを感じられる。次年度取り組む物販について検討を重ねることで形になるかもしれない」
2. まちづくり団体関係者より「今年はコロナ禍で思うように活動できなかったが、今後も協力して事業を展開していきたい」
3. アパレル経営者より「障害のある人たちの作品に力を感じる。アパレルを通して、何か一緒にできないかと、衝動に駆られた」
4. 三益式実行委員会より「沢山の人たちに芸術作品を通して、障害のある人たちのことを知ってもらいたい。一緒に芸術活動支援に取り組みたい。」

### 県外意見交換より

1. 展覧会のキュレーションを担当して頂いている福岡のキュレーターより、入館者が多いことに驚いている。コロナの影響で調査が思うように出来ず、その中に良い作品があったかもしれないと思うと残念だ、と感想を頂いた。
2. 展覧会場作りに協力頂いている福岡のインスタレーションアーティストより、初日に人が多く、それだけ皆に注目してもらっている。今回は人材育成も兼ねながら、計画的に会場作りを進められて良かった。他にも熊本には面白そうな作家がいそうで、来年も楽しみにしている、と感想を頂いた。
3. 次年度展覧会のキュレーションを担当して頂く福岡の学芸員より、熊本で活動が浸透していると感じた。次年度は会場が広がる不安もあるが、ゆっくりと違う感覚で見れるのではないかと。もっと沢山の作家を紹介したい、と感想を頂いた。

### 県内福祉施設芸術活動支援スタッフとのリモート会議

1. 福祉施設芸術活動支援スタッフとの意見交換より、「所属作家の作品が本活動を通してコラボ企画に採用され、活動の幅が広がった。」
2. 福祉施設芸術活動支援スタッフとの意見交換より、「レンタルアート展を開始した際に、本会登録作家のお墨付きもあり、活動の意義を感じている」
3. 次年度展覧会について、情報共有を行った。企画・協力に関しての意見交換を行った。
4. グッズ販売、作品販売について情報交換を行った。



生の芸術 ArtBrut 展覧会 vol.6  
出展作家の紹介



## 松本寛庸 Matsumoto Hironobu

1991年 山鹿市



松本が描く対象には、何らかの共通点が見受けられる。天体や地図、乗物、建造物、戦争など、個の水準を超えた拡がりをもつそれらは小単位の集積からなっている。具体的な構成要素が細かく描写されているものもあれば、多色の小さな区画がモザイク状に並ぶものもある。

その小さな単位の集まりが、今年の新作では原爆のキノコ雲と対決するゴジラの姿になって現れた。傍らには広島原爆ドームも見える。世紀が替わっても人類が逃れることができない核の驚異が「科学の落し子」の主題である。同じ様にモザイクからなる人体が泳いだり走ったりしている20点組の作品の背景は、同じ動作のミニミニ人体が集まってできている。自らもスポーツに親しむ松本だが、泳ぐ人、走る人に自転車レースが加わったトライアスロンも3枚組の1点となった。

### 主な出展

- 2010 「アール・ブリュット ジャポネ展」アル・サン・ピエール美術館（パリ）
- 2013 「アール・ブリュット・ジャポネ展」熊本市現代美術館（熊本）
- 2015 「VOCA展 2015 現代美術の展望 ー新しい平面の作家たちー」  
上野の森美術館（東京）
- 「日本の作品セレクション展」ミュゼ・ヴィジヨネール（スイス）  
グイグ・ミュージアム（オーストリア）
- 2017 「日本のアール・ブリュット KOMOREBI 展」  
フランス国立現代芸術センターリュウ・ユニック（ナント）
- 2020 「あるがままのアート-人知れず表現し続ける者たち-」  
東京藝術大学大学美術館

など、国内外で多数の出展がある

## 藤岡祐機 Fujioka Yuuki

1993年 熊本市

300円程度のはさみで、広告紙や色紙に1ミリにも満たない櫛の歯状の切れ込みを入れていき、「美術的な分類すら難しい」という比類なき作品を生む。切れ込みは、自然とらせん状になり、紙の裏表の色が交じり合って、立体感も加わる。年々細くなっていて、近作は0.1~0.2mmほどしかない。最後に紙にななめの切り込みを1カ所だけ入れて作品が完成する。

自閉症のため、一度も言葉を話したことがない。小学1年で初めてはさみを持ち、寝る時も手放さなかった。毎日5時間20年以上におよび、切り続けた時間は3万5千時間を優に超える。気の遠くなるほどの積み重ねが、誰にもまねできない道を切り開いてきた。

「アール・ブリュット・ジャパン展」（2014、スイス）、「すごいぞ・これは！展」（2015、埼玉県立近代美術館）ほか出展多数。今年には熊本市現代美術館で開催された「ライフ-生きることは表現すること」展や東京藝術大学美術館の「あるがままのアート-人知れず表現し続ける者たち」にも招かれた。



## 荒木聖憲 Araki Minori

1994年 玉名市



極小の紙片や糸のように細いこよりで描くちぎり絵は驚くほど繊細だ。まるで油彩画のように、厚みや質感まで紙だけで自在に表現している。テレビで見た“放浪の画家”山下清にあこがれて、中学時代に独学で始めた。つまんだ色紙を爪を使って切り出し、画用紙にのりで一つ一つ貼り付けて作り上げていく。完成するまで1~3カ月かかるという根気のいる作業だが、仕事がある平日でも毎日6時間は没頭する。大画面の作品になると1年半をかけることになる。今展の作品は一昨年の「四季彩の楽園」よりさらに壮大なものとなった星空の世界が表現されている。ゴッホの「星月夜」からインスピレーションを得たが、五輪色の花火や、令和の象徴である梅の枝、そしてコロナ禍に煩わされる社会の現状など、時事の話題も盛り込まれた。主役は画面右下で腕を広げ高らかにうたう歌姫である。表面からは見えないけれど、荒木は歌姫の身体的存在感を表現するために、骨格づくりからはじめ、それにコルセットやパチコートなどの下着も着せた上にドレスを纏わせた。舞い上がるように自然な動きのあるポーズはその隠された企てから生まれたものだ。

## 荒川琢磨 Arakawa Takuma

2009年 熊本市

アール・ブリュット・パートナーズ熊本の展覧会をこれまでにご覧いただいたご家族や関係者から、展覧会に参加できたらという推薦をいただくことがある。琢磨くんはそんな中から有望株として出現した一人である。琢磨くんが描く文字や数字や図形は、すべて琢磨製キャラクターに変身する。アルファベットの文字や数字にも手や足がつけられいろいろな動物になったりする。今回のカラーモンスターは、12色の手足がついた顔のモンスターだったり、カラフルな15色の○だったり、色の名前が英文字で並んでいたりするものの3点組である。もうひとつは太陽系や準惑星の天体が図形で表され、英語の指示が入っている。琢磨くんは、宇宙の構造にも詳しいけれど、どうやら英語が達人なようだ。





## 内野貴信 Uchino Takanobu

1974年 熊本市



内野が様々な大きさに切ったダンボールの断片に描くのは、ほとんどが日常生活の中で見ることができるものである。食べ物や、身につけるもの、草花や樹木などが見たままに写実的に描かれるのではない。マンガや広告のサインのように単純化されている。ものを見ながら写生するのではなく、イメージの中にあるものが絵になるのである。背景にはいつも抽象絵画のような色面分割が施されている。これまで食べ物や身の回りのものなど静物が多かった内野の作品に、昨年から人物画が加わった。それもパラリンピックの様々なスポーツ競技に挑む人の姿が描かれるようになった。今回は、車椅子テニスや回転スキー、リレーなどの種目が選ばれた。選手たちの表情は、これまでたびたび描いてきた人物像のように、戯画化されているけれど、その姿態はとてもリアルで渾身の力を出して競技にのぞんでいる瞬間が巧みに捉えられている。

## 緒方愛 Ogata Ai

1981年 熊本市

愛さんの描く動物たちは、とても表現豊かに独創的に特徴がつかまえている。黄色いからだのキリンの背中模様は大小の茶色い四角形が並んで表されている。猫のからだも蜘蛛の巣を張り巡らしたような格子でうずめられているが、ふわふわした猫の毛並みなのだと思います。イルカのような哺乳類と見える動物に4本足がついたものは恐竜なのだそうで、ピンクのボディに足はきれいなアボカドグリーンだ。4点とも背景はとても装飾的である。「きょうりゅう」と「馬」はビーズを集めたようにカラフルなドットの詰合せの上にいるし、「きりん」は黄色い体と同系色のまだら模様をバックにすっきりと立っている。晴れた空の下にいる「白いねこ」の周りには野原に咲く花たちが顔を覗かせている。



## 菊川豊 KikukawaYutaka

1945年 菊池市



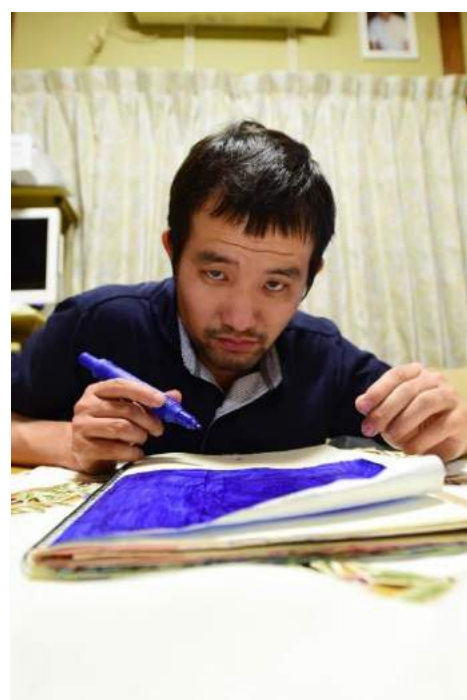
主にクレヨンで描いた力強い独創的なイメージは「自分の頭の中に出てきたもの」と言う。ピカソのようなカラフルな抽象画から、靴墨だけで描いたモノクロの犬まで作風は幅広い。一度完成した絵に切り抜いた紙や枯葉を貼って修正を加えるなど発想の趣くままに仕上げていく。墨汁をつかった影絵のような樹木、黒白の濃淡で作り出す山水は最近よく見られるようになった。

中学を卒業後、家業の青果店などで働き、50歳を過ぎてからグループホームで暮らしている。絵を描き始めたのは64歳の時で、施設のレクリエーションがきっかけだった。最初は乗り気ではなかったが、楽しさに目覚めると自室で創作に没頭するようになった。2015年に熊本県立美術館分館で開催された第1回アール・ブリュット展覧会に作品が選出されたことで、さらに創作意欲が増したという。

## 駒田幸之介 Komada Kounosuke

1988年 熊本市

駒田はボールペンや細いマーカーやクレヨンなどで画用紙に線を引いていく。線は何かの形を描くのではなく、ただひたすら同じ方向に引かれ、画面が埋められていく。いつしかその線は塗り重ねられ、三角形や四角い形を作っている。すると今度は線の向きと色彩が変えられ、90度交叉した形で新たな形が塗り重ねられる。こうしてできあがった画面には、色違いのいくつかの形態が、並んだり斜目に組み合ったり、重なったりしている。ときには大きな余白もあらわれる。形に囲まれて見えてきた余白である。まれに風景や花を描くこともあるようだが、それらにしても線で塗りつぶされて形が見えてくるものである。3歳で自閉症候群と診断された。城南町の生活介護事業所に通い、絵を描いて過ごす。高速道路が好きだという駒田は、一心に線を引く手を止め、突然、立ち上がり部屋の窓から遠方の高速道路を眺める。そしてまた画面に帰っていく





## 立尾慎士 Tateo Shinji

2006年 熊本市



ひと筆書き？途切れのない線から生まれる、おかしな格好の生きものたちは慎士くんの空想の世界からやってきた。台詞らしき言葉を話しているのか、文字が書き込まれているけど、通訳なしでは意味不明である。蟹や海老や毛虫に似たこの世の生物を思わせる形も混じっている。でも多くは見たことのないものが一枚の紙の中にもうごめいておしゃべりをしている。生きものなのか乗り物なのか、宙空を飛んでいるのか、水中を遊泳しているのか、わからないけれどみんな何かしら動いている。何枚もの紙を立て続けに見ているとアニメーションのようで怪獣たちが囁くストーリーを知りたくなってくる。ダウン症で菊池支援学校に通う慎士くんは絵を描くことが大好きで毎日毎日描き続けている。

## 塚原亮 Tsukahara Ryo

1992年 熊本市

おなじみの生きものたちが塚原亮の手にかかると、見知らぬ珍獣や怪獣になってしまう。「五匹の動物」は顔が重なり合っているので判別が難しいが、ウサギ、猿、熊に犬と猫だろうか。これらもよく見かける動物たちだが、塚原が描くと、眼を見開いた強い視線がこちらに伝わってきて、なにか言いたげな動物の内面までが滲み出る。チンパンジーの腕に抱かれたホワイトタイガーは動物園でも珍しい存在で、白象や白牛とともにインドでは神聖な生き物として崇められているそうだ。インドといえば「タージマハルの城」も世界遺産となって人々に愛されている白亜の建物である。塚原は墨汁一色で、滲みやぼかしを使い分けて、光り輝く大理石の質感を表現している。夕陽を浴びて薄ら桃色に染まった空を背景にした「夕焼けの桜島」とともに、昨年は見られなかった風景画が塚原の作品群に登場した。



## 萩野雅治 Hagino Masaharu

2001年 熊本市



5歳の頃から描き始めたと言われる雅治さんの作品は何冊ものファイルに、ジャンル別に整理されている。動物が一番多いが、それも動物園で人気の哺乳類や鳥類に始まり、シャチやマンボウ、イルカなど水族館か魚類図鑑のなかでしかお目にかからない珍しい魚類かとおもえば、鰈やイカ、蛸など食卓にのぼる魚たちもいる。身の回りにいる虫たちも混じった動物のほかにも、果物や野菜も身近なものばかり。そのほか乗り物がたくさんだが、乗り物たちもまるで生きてるように表情が豊かだ。今回は動物や植物、乗り物の絵にはちょっとお休みをいただいて、「歯みがきカード」という12枚組の顔の絵だけが展示されている。みがいている歯が色分けされた顔が並んだ図は、歯みがきの順番を12枚の顔の絵で図解したものだそうで、歯みがき指導書のようなものらしい。まずは歯を閉じたまま、左下→真ん中下→右下と進む。上の歯に移って一周すると、今度は歯を開いて、左下裏側→真ん中下裏側→右下裏側とまた、歯の裏側まで一周。1番から12番までで歯みがき完了となる。

## 濱田はるな Hamada Haruna

2003年 熊本市

はるなさんが描き出す人の顔や身体は一風変わったかたちから成っている。角々と折れ曲がった直線がほとんどで、丸みのある柔らかな線はほとんど見られないのである。とはいえ冷たい線ではなくて、それらの直線が目と目をつなぎ、鼻や口を縁取りして、愉快的な表情が生まれてくる。角ばっていても画一的ではなくどことなくその人物の特徴も覗くことができる。お馴染みの先生は何度も登場するが、先生へのメッセージなのか、密かなつぶやきか、たくさんの言葉が添えられている。先生から飲み会の話の聞いたりすることがあるのだろうか、ビールジョッキを片手にした人物や、卓上にお酒の瓶を置いて食事する場面も描かれてる。「夢で飲み会」は、お酒のメニューも並んで、そんなお酒呑みへの好奇心があらわになったものである。





## 原三保子 Hara Mihoko

1956年 熊本市



ボールペンで一面に描込まれた震えるような線が建物や動物たちを形づくっている。クレパスで部分的に彩色されているものあり、僅かな余白を残して全体が数色に塗り分けられたりしているものもある。動物の方はライオンや野うさぎといった現存の動物もいれば、人間のようなポーズの恐竜も混じっている。震えるような線といったが、実は線はゆらゆらしているのではなくて、短い単位の線が平行したり、小さな四角形に画割りされたりしているのだった。城の建物ならば、それらは石垣の構造を示しているのだとわかるが、動物の身体も同じ構造を持って描かれている。原は写真や動物図鑑、恐竜図鑑を見て描いている。描かれているうちに見本から遠く離れ、想像力を膨らませた作品が次々と誕生してきた。

## 本田明奈 Honda Akina

1983年 宇土市

鉛筆で輪郭線が引かれ淡い水彩絵の具や色鉛筆とクレパスで色付けされた明奈さんの作品では、お友だちや蝶々、花、家など親しんだ身の回りのことに加え、「海のそこ」という空想の世界も表現されている。どれも背景やモチーフの並び方が、2段3段に積み上げられているのが特徴だ。「いえ」は2階建てか3階建てか？画割りされて積木風に重なった四角形は窓や入口の扉と見えるけど、左端の重なりは室内の家具のようにも見える。家の外と内が一つの面におさまった不思議な家である。「ちょうちょと好きな花」も背景が3段積みになっているし、「グループのなかま」も上下2段に並んでいる。どちらも地面が下にあるので、この階層は素朴な遠近法なのだとわかる。立って泳ぐ魚と不思議な生物のいる「海のそこ」の場合はこの段々は水の深さが表されているのだろうか。どの作品にもある段々はそれぞれ意味が違っているのかもしれない。



## 本田美奈子 Honda Minako

1956年 熊本市



本田のスケッチブックにはこれまで色とりどりの花の絵と文字が描き込まれていた。季節や年月が書き込まれているので、絵日記なのかと文字に目をやると、それらが植物の名称や種苗の注文記録であり、また生育の特徴がメモされているのだとわかった。昨年からは植物の絵に混じって、初めて動物が登場した。そして今年は動物ばかりになった。動物の絵の中にも文字は書かれているが、植物生育日記とはちがって、身近に飼っている動物ではなさそうだ。「メンフクロウ」「ラマ」「カンガルー」「キツネザル」「フンボルトペンギン」など、動物園か動物図鑑の中でしかお目にかかれない動物たちだ。ただしどの動物もその特徴が捉えられているのではない。どれも同じく頭と胴体、手足が描かれ、その内部はパッチワークのように色分けされている。とくに手足が枝や葉に見えるところなど、これまで描いてきた植物の表現にも似ているのだった。

## 曲梶智恵美 Magarikaji Chiemi

1981年 熊本市

十代以来、油絵制作や手芸、園芸など手作業が中心の趣味の活動に力を注いできた。主治医の進言もあって、言語によるコミュニケーションよりも創作を通じて自己表現を行うようになった。手先の器用な曲梶には、精緻にイメージを積み重ねたコラージュ作品が多い。それも麻紐を幾重にも組合せて盛上がりのヴォリュームを出すものと、それよりも平面的だが、切り貼りした写真が画面に充満しているものという2種の作品群がある。前者では色とりどりの上向きU字型や渦巻きのテープによって動力感が表現されている。自身で撮ったものやインターネットから拾い出した写真を用紙に印刷し貼り合わせた後者には、拡大率もまちまちの写真が組み合わされてどこも知れぬ風景が現れる。このほかビーズ細工や刺繍も手がけ、展覧会出品や受賞歴も多々ある。今回の新作「街」と「2019年東京」は熊本震災後にたびたび訪れたり滞在した都会の印象を表したもので、手法は異なるがどちらにも建ち並ぶビル眺めが部分に入れ込まれている。





## 牧野慎也 Makino Shinya

2001年 菊池市



慎也さんの作品群には、画用紙にクレヨンや絵の具で描かれたものと、様々なモチーフが小さなカードに描かれ、それらが透明テープでコーティングされたシリーズの二種類がある。昨年は「食べ物」「お菓子」「楽器」「行事」「場所」などと画題ごとにファイリングされた後者のシリーズが数多く出品されたが、今年は姿を見せないことになった。その代わり植物や身の回りの対象をとらえたクレヨン画の作品が並んでいる。おそらく施設での作画の時間に課題として与えられたモチーフなのだろうか。「ワインのビンとグラス」には瓶のラベルに書かれたフランス語の文字までしっかり写しとられている。そのほかの「松ボックリ」や「椿とおしべ」では、粒粒が集まった網目の部分がきわだっている。その小さな網目は「宮崎さんと帽子」の毛糸の編目や革靴の紐や縫い目にも通じている。

## 松下高德 Matsushita Takanori

1947年 熊本市

ぶどうの木に黙々と静かに、無数の釘を打ち込んでいく。木肌を埋め尽くした釘のすきまに、また釘を打ち込む。数百本、数千本と打ち込み続けた果てにできる「釘の森」が完成する。見る人を圧倒する独自の作品は、県外の美術展でも紹介されるなど評価を受けている。

50歳の時に入所したが、当初は芸術活動に興味はなさげで、紙すき用ミキサーのスイッチ係だった。ところが職員が、母親から鳥の巣箱を作ったことがあると聞き、金づちと釘を渡したところ、制作に熱中するようになった。いつも笑顔を絶やさぬ温厚な性格。



## 山口秀隆 Yamaguchi Hidetaka

1982年 宇土市



幼少の頃から大好きな電車の絵ばかりを描いてきた山口が、動物もよく描くようになったのは、熊本市動物園の写真集を贈られた一昨年からである。動物たちの背景にある空や地面の描き方が、電車シリーズの細部の表現に似ているのがおもしろかった。そして数年前から人物がいる街や建物の情景が描かれるようになった。熊本市の中心市街地桜町は色とりどりのネオンが煌めき人通りの途絶えない「夜の大にぎわい」として描かれた。星空の下、夜の「札幌雪まつり」の情景も白い雪景色のはずが極彩色のイルミネーションを浴びている。「桜満開 熊本城」の桜も真昼の空を背景にしても、なぜか光ってるよう。渋滞中の交差点か「車大集合」はさすが電車びいきらしく乗り物の細部にまで視線が注がれる。電車を描くことが減ったわけではなく、「まだまだ描きたい列車がある」と語っていたことも思い出される。光るもの、動くものから目が離せない山口である。

## 山品聡美 Yamashina Satomi

1967年 山鹿市

名前を書き入れた人物たちは、これまで山品が所属する施設のスタッフや共に入所している人たちが多かった。今回は山品家の人たちのご登場である。自分の名前が書かれているのは自画像に違いない。ご両親や兄弟姉妹にまじって動物のように耳が立っているのは家族で飼っているペットだろうか。ここに並んだ人物たちと名前の文字は、これまで山品が文字書きの練習として書き続けてきた漢字の列と同じく、少しだけ斜め下がりの段々になっている。「あみずの丘」は果樹園の垣根だけが格子で描かれていて、その上を色鉛筆でなぞったものだ。城にも似ている「かわらの家」には「鹿本町御宇田」の住所が付されている。山品にとって地名や人名への興味は尽きることがないのだろう。





## 山本規仁 Yamamoto Norihito

1998年 熊本市



始皇帝、織田信長・歴史上の英雄たちも、彼の空想の世界では、謎の宇宙怪獣のような衝撃的な姿をしているようだ。A4のコピー用紙にボールペンで、細かい線を重ねて描く作品はおどろおどろしくもあり、ユーモラスでもある。

ゲームなどから着想を得て、動物と人間のイメージが混ざり合っていると言う。ただ描いた本人すらも「何ですかね？」と返答に困るものもある。

小学校低学年の時、1人で通学するのを心配した母親に「1人じゃない。仮面ライダーと一緒にだったよ」と笑って答えていた。育み続けた空想の世界から創造物が飛び出した。

6歳の時、高機能自閉症と診断された。就寝前のそうめんの木箱の上で「アトリエ」だったが、今は田崎市場内事業所に就職し、なかなか絵を描く時間を見つけられなくなってきた。

## 吉崎真理 Yoshizaki Mari

1978年 玉名市

吉崎真理さんはノートに自分で作った絵入り物語を描いている。「かぼちゃとトマトとバナナでーす」は、3者が仲良く集まって相談の上、車を作ってドライブへ出かけるお話である。車をもらったり見つけてきたりではなく、自分たちで作るというのがまず驚きだが、もっとすごいのは、自分らがその車の部品になって動き、かぼちゃだけが乗せてもらう役割というのだ。バナナはボディでトマトはタイヤ、それにかぼちゃが乗ってみんなでお出かける。どう見てもかぼちゃだけが得をしているようだが3者はそんな事を気にしてはいなくて楽しそうにドライブを続ける。もう一方の「へんそうをしたカエル君とネズミ君」はカエルとネズミが、まるで着ている服を交換するように、外見を入れ替わるお話。ただお友だちを驚かせるという目的だけでやっているのがまたすごい。こんな奇想天外だけど可愛いお話を思いつく吉崎さん、病気でたいへんだったが2000年ころから人との出会いを大切に音楽や絵を楽しむ生活に変わってきたそうだ。「はだかの大将」山下清に憧れて放浪を試み、警察に保護されたことがあるという逸話がある。警察署内で迎えを待っている間に警察官の似顔絵を描いていたというから、微笑ましいものである。



相談

対応

1

県庁担当課より、登録作家の作品を「第2期くまもと子ども・子育てプラン」の表紙に使いたいのので、作品使用の許可を含め、連絡調整をしてもらいたい。

作家・家族の使用許可をはじめ、印刷委託業者との電話でのやり取り等、調整を行い、「第2期くまもと子ども・子育てプラン」表紙になることが実現した。

2

作家家族より、N 団体から以前展示したことのある作品データの使用依頼が届いた。展示した時に写真を撮ったものと思われるが、作品データを持っていることを知らなかったうえに、その後の対応等に不満を持っている。

作家家族に過去の権利擁護研修の資料を提供し、それぞれのケースについて確認した。もし、許諾なく N 団体が勝手にやっていることならば権利侵害である旨を伝えた。今回は、許諾したことを忘れていただけかもしれない、次回から気を付けて文書に目を通すとのことで、納得した様子だった。

3

作家家族より、東京都のある区役所の売店で家族が作成したポストカードが販売されていると東京の知人から連絡があったとのこと。販売される覚えがないので、販売を止めてもらいたい。

当该区役所の売店に連絡して、事実確認を行った。東京のある事業所が出していたようだが、現在は販売しておらず、該当事業所も不明とのこと。そのことを作家家族に伝えたところ、現在販売されていないのならば大丈夫、と安心されていた。

4

今年度より、県の芸術活動支援センターを開所した担当者より、熊本県の支援センターとして、どのように他団体と連携し、運営しているのかをお聞きしたい。

「障害者芸術活動支援センター@熊本愛隣館」と県内で芸術活動支援をしていた「アール・ブリュット パートナース熊本」との関係について説明し、会則等の資料を提供した。

5

作家より、現在制作中の作品(1000mm×2000mm)の額装について、値段や色について相談したい。また、秋の展覧会展示終了後に地元で個展を開催する時、自分では運搬が難しいので個展会場まで作品を運んでほしい。

熊本市内の額縁店に同行し、色や値段について店側との調整を行った。また後日、額装する日程について、作家本人と額縁店の双方に連絡をとり調整を行った。展覧会終了後には、個展会場まで作品を搬送した。

6

地元新聞記者より、本年度の展覧会に選出されている方で、これまであまり新聞等で紹介できていない方を男女一名ずつ取材して記事にしたい。該当する人を紹介して頂きたい。

取材対象となる作家を検討し、資料提供や取材場所、取材日程について調整を行った。そのうち1名の取材には、事務局に同行してもらいたいとのことで、取材に立ち合い、作品の運搬等に協力した。取材記事は、令和2年10月9日の地元紙朝刊に掲載された。

7

事務局のある地元公民館長より、11月に開催する地元の祭りにて、登録作家の作品を展示してもらえないか。

作品の展示場所や安全面の配慮等について詳細を尋ね、事務局に保管していたレプリカ作品を含む4点を展示した。展示準備から撤収までを行った。

8

アパレル店経営者より、障害のある人たちの作品をデザインとして、自身が経営するアパレルと連携して何かやれないかと考えている。

数回に渡り打ち合わせを重ねている。実際に作家が制作するギャラリーに足を運びたいとの要望を受け、作家との日時調整と当日の立ち合いを含め、連携して事業を行えるように準備を進めている。

9

展覧会場来場者より、展示している作家の中に特定の障害がある作家がいるかを尋ねられる。該当作家の親と話をし情報交換等を行いたいが、調整してもらえるか。

該当する作家が一人選出されていたので、作家の保護者に連絡をとり、事情を説明した。連絡先を教えることを快諾して下さり、その後、保護者同士が情報交換を行えるよう調整した。

- 10 展覧会場にて、県内の30歳の立志式団体三益式実行委員会委員長より、何か一緒に事業を行えないか。
- その場で打ち合わせを行い、移動美術館やデザインを使用したシャツ等のアイデアが出た。実行委員会内で再協議後、作品を使ったTシャツが形となった。また、今後もマイボトルやマイバックの作成が予定されている。
- 11 作家より、「くまもと障がい者芸術展」に特別展示することが決まった。どの作品を展示するかについて、数点候補を挙げているが、最終的な判断が難しいので、アドバイスしてほしい。
- 事務局内で協議し、作家が挙げた作品のうち、既に展示したことのある作品を中心に数点選んだ。また、未発表作品を発表する際の注意点を伝えた。
- 12 熊本市担当課より、熊本市が実施する作文ポスターコンクールの参加賞に当団体作成ポストカードを使いたいが、在庫等含め検討して頂きたい。
- 在庫に余裕があり、喜んでお引き受けする旨を伝えた。後日、本件に関して熊本市の委託を受けている団体までポストカードを持参した。
- 13 長崎で開催された展覧会のキュレーターより、熊本のある作家の最近の出展歴は把握しているが、昔のことも知りたい。なにか資料があれば、提供して欲しい。
- 以前、当団体で作成していたその方の図録の在庫があり、当時の状況等も書かれていたので、その資料を提供した。
- 14 当団体協力者より、これまでの展覧会展示について、自分で使うようにデータや写真があれば提供して頂きたい。
- 事務局で保存している過去のデータの中から該当する箇所のデータと写真を提供した。
- 15 県内相談支援事業所より、支援対象者が、何か目標が欲しいとのことで、芸術活動支援について情報提供したい。現在されている活動の詳細を教えて欲しい。
- 当団体が行っている活動について、これまでの活動報告やパンフレット等の関係書類を送付して、情報提供を行った。
- 16 県の担当課より、障害者芸術展の協力について、特別出展作家である作家のご自宅への同行と作品の借り受け時の協力をお願いしたい。
- 作家の状況を県の担当者に説明し、作家のお姉さまと日程調整等を進めた。後日、作品借受のため同行し、梱包等の協力を行った。
- 17 作家より、2月に個展開催が決まった。自宅から個展会場まで作品を運ぶ手段がないので、運搬を協力してもらえないか。
- (コロナの影響等も懸念して) 毎回個展開催の度に運搬協力をするのは難しいと思うが、今回は協力できる体制が整っているため協力できる旨をお伝えした。後日日時の詳細等を打ち合わせ、運搬の協力を行った。2/16~
- 18 作家家族より、新しい作品が平面ではなく、立体的な作品に仕上がった。大きな作品で横にして置くと、場所を取るため保存方法等についてアドバイスを頂きたい。
- 立体作品の保存方法等について、専門家に事情を説明し、アドバイスを頂いた。具体的な固定方法で立てて保存すると場所をとらず、安全に保存できると聞いたので、作家家族にその方法を伝えた。さらに、木枠の作成等、技術的に難しい場合は、手伝う旨も申し添えた。
- 19 作家家族より、ある展覧会に向けて、関係書類を送るように展覧会事務局から言われている。メールで書類を送りたいがうまく送れないので、困っている。
- 事務局員がご自宅を訪問し、原因を確認した。関係書類の内容も確認し、メールで送ることが出来そうだったので、先方に該当書類を送る作業を行い、作家家族も安心された。
- 20 作家家族より、ある団体から展覧会の出展依頼がきた。これまで対応に不満を持つこともあり、出展を慎重に検討したい。意見を伺いたい。
- 出展依頼の書類を確認して、条件等について確認した。まずは、本人・家族が出展したいかどうかを確認し、その意向に沿ったアドバイスをを行い、今回は出展を見送ることになった。



令和2年度 実績

・連絡調整件数

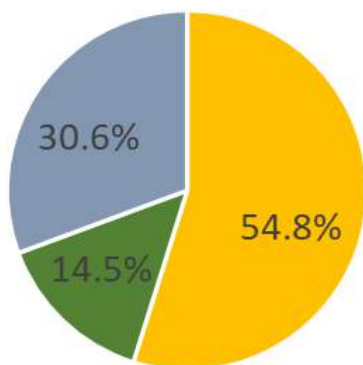
情報提供、連絡・日程調整 メール 349 件 会員メール(情報発信 33 件)

・相談件数 62 件(作家・家族・支援者 等)

芸術活動に関する情報提供、展示に関する事、  
売買・二次利用に関する事 等

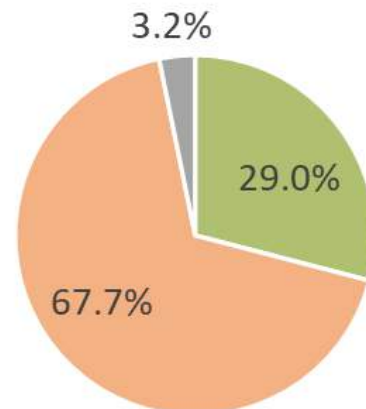
相談者属性

■ 当事者・家族 ■ 支援者 ■ その他



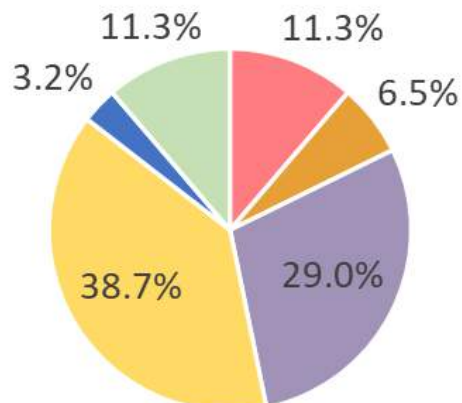
相談方法

■ 来所・訪問 ■ 電話・メール ■ ホームページ



相談内容

■ 展示 ■ 制作・保存 ■ 二次利用・売買 ■ 情報提供 ■ 作家登録 ■ その他





生の芸術ArtBrut展覧会 vol.6  
2020年10月6日-18日  
来館者 2,044名 アンケート回答 189件





### 展覧会アンケートより

- 1人ひとりから力強いメッセージが伝わってきます。作品に込められた思いを感じ取る感性が求められるような気がします。多くの人に見て欲しいです。
- どの作品も独創的でとても素敵です。色使い、構図、タッチどれも。毎年この展覧会を楽しみにしています。
- とてもすばらしい作品ばかりです。表現することへのあこがれを持ちました。自分も自分を大切にしたいと思いました。元気をもらいました。ありがとうございました。
- これまでも数回この展覧会に来場させていただいているのですが、毎回感動し、あたたかい気持ちになっています。迫力があったり、やさしさがにじみでていたり、素敵な作品ばかりで、作家さん方の世界観にひきこまれました。ありがとうございました。
- 毎年見せて頂いていますが、作家さんの作品の変化が進化と表現できるのではないかと思うような内容や表現であるように感じました。外の環境に負けず豊かな表現で、いいなあと思いました。
- 初めはきれいな絵となんか個性のある個展なのか?と思い足を運びました。ここに来る前に博物館に行って来たのですが、その展示が霞んで見えるくらい楽しく、驚き、尊敬を覚えました。しかも名のある個性的な人たちかと思えば地道に作業をしている人達の展示でびっくりしました。どの作品もその人の力強さが出て「うわっ」が止まりませんでした。
- どれも迫力のある素晴らしい作品です。曲梶さんの作品もどんどん変化してボリュームのある作品になっています。嬉しいです。
- 長い時間眺めていました。ひたむきさ、素直さ、日常生活で自分に乏しいところがこちらでは満ちていた。ありがとうございました。
- 素敵な作品ばかり、久しぶりにいいものを見れました。





○どの作品も心もようが伝わります。すごいです。

○ぼくははじめて芸術を見ました。よくわからないこともあったけど、なぜかすごい、そういうのがつたわってきました

○この数年拝見しておりますが、年々作品の密度が上がり、成長や技術の向上に目をみはります。又、展示の工夫も飽きさせません。継続開催、出品されることを期待しています。

○自分も絵が好きですが、考え込んでしまい、最近筆が全く進みませんでした。ここに元気をもらえたらと来てみました。ものすごいパワーに満ちた絵ばかりで創作するっていいなと思えました。

○好きだなあと思う作品の前で幸せをたくさん頂きました。このひと時生きている確信が持てます。感謝

○作品の美しさ、繊細さを感じた。大学で特別支援について学んでいるが、子供たちの関心や興味を、この作品を書いた人たちのように個性をのばす教育ができるようになりたいと強く感じる事ができた。

○才能とは何か考えさせられます。決して媚びることのない作品は、やさしさとあたたかさがあります

○"Thank you very mach for this conduct.I'm very enjoy.Next time,we will visit a gain.訳:今回の取組をありがとうございました。とても楽しいです。次回また訪問します。"

○今まで見た芸術品で一番感動しました。涙が出て来ました。素敵な時間をありがとうございました。力を頂きました。

○人として生きることは表現し続けること。私はその手段に言葉(発語)を選んだが彼らはアートを選んだ。ただそれだけのことなんだと思った。

○年々素晴らしい展覧会になっていますね 感動や驚きと共に作家さんたちの集中力やエネルギー、想いを感じ観る度に新しい気づきや発見があります 感動をありがとうございます!







- 様々な作品を見て、作者の性格や想いが伝わって来て終始感動して鳥肌が止まりませんでした。療育者として、一人の母親として子どもの力を信じて可能性を伸ばしていきたいと思います。素敵な作品と出会わせてくださり、ありがとうございました。
- 同じものが2つとない個性豊かな作品に毎年感銘を受けます。特に荒木さんの大作には驚きました。繊細でありながらも、見れば見るほど数えきれない程の色幅に感心しました。それなのに濁ることのない色の組み合わせ…感覚なのでしょうか？計算されたものなののでしょうか？スタッフの皆様にも感謝申し上げます
- 今回、コロナの影響で展覧会の開催自体が危ぶまれた状況でもありましたが、こうして開催することができ、本当に沢山の方々に作品を見て頂けたことを嬉しく思います。この展覧会という場を通して、熊本でコツコツと創作を続ける作家の皆さんのことを、同じ地域で生活する人たちに知ってもらう機会になれば良いなと思っています。作家の皆さんには、毎年素晴らしい作品で楽しませて頂き、ありがとうございます。
- コロナ禍、作家さんはじめ予想に反して多くの方が会場に足を運んでいただき嬉しく思いました。新聞やテレビを見て初めて来ていただいた方も多く、来場された方の多くが長い時間をかけてゆっくりと作品をご覧になり、作品に力があるとか感動しましたのお言葉を頂き、改めて個々の作家の皆さんのすごさを実感しました。ありがとうございました。
- 今年も由緒ある熊本県立美術館に沢山の個性、情熱溢れる作品が一同に揃いました。今回は特にストーリー（物語）などメッセージ性の強い作品を多く観覧することが出来ました。感じ方、捉え方は様々ですが、今の混沌とした時代に強烈に訴えかける何かがあったと思います。これもアールブリュット作品の魅力と改めて思いました。
- 素敵な作品に出会うことができ、とても幸せでした。作品から伝わるパワー、癒し、感動、色々な感情が込み上げました。この展覧会にスタッフとして関わられたこと誇りに思います。これからも作家さんたちの活動を陰ながら応援していけたらと思います。本当にありがとうございました。





アール・ブリュット パートナース熊本 理事・役員名簿

	役職名	氏名	所属団体及び役職
1	会長	西島 喜義	熊本市 元副市長 熊本市シルバー人材センター 理事長
2	副会長	安達 憲政	熊本市日日新聞社 前編集員 熊本大学文学部非常勤講師
3	副会長	林田 直志	公益財団法人 永青文庫 常務理事
4	理事	栗崎 英雄	熊本県知的障がい者施設協会 前会長 (第二つつじヶ丘学園)
5	理事	日隈 辰彦	熊本障害フォーラム (KDF) 事務局長 (ヒューマンネットワーク熊本)
6	理事 事務局長	三浦 貴子	熊本県身体障害児者施設協議会 会長 (愛隣館)
7	監事	川村 隼秋	熊本県手をつなぐ育成会 会長
8	監事	塘林 敬規	熊本市社会福祉施設連合会 事務局長 (大江学園)
9	アドバイザー	藏座 江美	一般社団法人ヒューマンライツふくおか 理事 元 熊本市現代美術館 主任学芸員
10	アドバイザー	岩下 勉	熊本市日日新聞社デジタル編集部 次長
11	コーディネーター	西 恵美	熊本市手をつなぐ育成会 会長
12	コーディネーター	土井 章平	野々島学園 施設長

社会福祉法人愛隣園 事業事務局

	役割名	氏名	所属
1	理事長	三浦 一水	社会福祉法人愛隣園 理事長
2	事務局長	三浦 貴子	障害者支援施設愛隣館 総合施設長
3	事務局	田中 裕一	障害者支援施設愛隣館 統括部長
4	事務局	納富 久	障害者支援施設愛隣館 総務部
5	事務局	堀田 直美	障害者支援施設愛隣館 総務部副主任
6	事務局	久武 康博	障害者支援施設愛隣館 地域福祉部
7	事務局	松本 薫	障害者支援施設愛隣館 地域福祉部
8	事務局	富田 芳博	障害者支援施設愛隣館 総務部主任
9	事務局	福山 清一	障害者支援施設愛隣館 生活サービス部

令和2年度厚生労働省障害者芸術文化活動普及支援事業  
(熊本県障がい者芸術文化活動普及支援事業) 報告書

(企画・編集)

社会福祉法人 愛隣園 障害者支援施設 愛隣館  
《アール・ブリュット パートナーズ熊本》

〒861-0551 熊本県山鹿市津留 2022 <http://aileans.com/saca/>  
Tel:0968-43-2771 Fax:0968-43-2793 Mail:ailinkan@magma.jp

(編集責任者)

三浦貴子

(企画・校正)

富田芳博・納富久

(印刷・製本)

株式会社トライ

(助成)

令和2年度厚生労働省障害者芸術文化活動普及支援事業  
(熊本県障がい者芸術文化活動普及支援事業)